

ぱあとなあ静岡 成年後見初回受任事例 ～多職種連携において社会福祉士の役割～

岡村記念病院 田中賢司

要旨

2024年3月に初めて成年後見人を受任した。ケースを通して、多職種の方々と協働して、被後見人にかかわっている。そこで、見えてきた社会福祉士としての役割を考えていきたい。

I. 目的

初回の引継ぎミーティングで多くの関係者の存在に圧倒されたが、実践を通して、多職種と関わっていく重要性を認識した。そこで、多職種連携において社会福祉士がどのような役割を果たすべきかを明らかにしていきたい。

II. 研究方法

2024年3月から12月現在まで受任した事例を定期的に行なった面談や支援内容、多職種との連携状況の記録を振り返り、そこらを社会福祉士としての役割を分析した。

III. 倫理的配慮

ケアマネージャー同行のもと被後見人に研究の趣旨を説明し、本報告することへの同意を得た。また、報告するにあたり、個人情報に十分な配慮のもと、個人が特定されないように取り扱っている。

IV. 結果

- 生活の安定化：ヘルパーサービス、デイサービス、配食サービス、理容サービスなど、適切なサービス利用できるように、担当者からの相談に迅速なレスポンスするように行動した。
- 健康状態の改善：内科、皮膚科、眼科など医療的ニーズの変化に対し、多職種が迅速な行動ができるように、あえて自ら行動しなかった。
- 社会参加の増加：デイサービスでの被後見人は歌を唄い、笑顔で、自宅での様子とまた違った側面を見せていた。自宅のみならず、デイの

様子をケアマネと一緒に見に行動した。

- 意思決定能力の維持：夏場の猛暑対策で、ケアマネやデイサービス担当者からの提案を受けた。しかし、報告を鵜呑みにせず、自己決定の機会を設けるため、自宅に行く行動をとった。

V. 考察

結果を踏まえ、社会福祉士は

- 被後見人の生活全体のアセスメントとサービス調整の役割
- 医療・介護等の専門職種間の連携を促進するコーディネートとしての役割
- 被後見人の社会的なつながりを意識した社会参加促進の役割
- 被後見人の自己決定を尊重した意思決定支援の役割

であり、それを行動することである。

VI. 結論

社会福祉士は被後見人をミクロレベルで、多職種専門職をメゾンレベルで、役場、団地の寮費集金係、理容店、不動産屋、電気屋などインフォーマルサービスも含め、マクロレベルでコーディネートする役割を担う。だから、幅広い見識と多面的な意見を求めて、ぱあとなあ、リーガルサポートなどの研修会に参加している。

参考資料

- 専門職後見人と身上監護 民事法研究会
権利擁護と成年後見実践 日本社会福祉士会
成年後見実務マニュアル 日本社会福祉士会